

令和3年度 自己評価・学校関係者評価

令和4年3月22日
静岡なかはら幼稚園

1 幼稚園の教育目標

いきいきと やる気を持って 遊ぶことができ 自立心のある子どもに育てる

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- 1、明るく健康な子に（あいさつ、おはよう・ありがとうなど）
（体をいっぱい使ってあそぼう）
- 2、自立心があり周りの人のことをよく理解できる子に
- 3、身の回りの事物に関心を持つ子に（自然との関わり、園外に多く出る）
- 4、言葉をよく理解して上手に使える子に（お話をしっかり聞く、話す）
- 5、積極的に表現できる子に（自分の思いをことばや絵に）

3 評価項目の達成及び取組状況

※関係者評価の欄に記入してください。

よい A - B - C - D 努力したい 4段階

評価項目	結果	理由	関係者評価	意見
① 保育の計画性	C	経験のある職員が声を掛け合い、行事チームから大きな行事の案が早く出て、全体としては余裕を持って進めることができたように思う。しかし、学年や担当部門によって取り掛かりが遅くなってしまったものもあり、大いに反省すべき点であると感じる。 先の見通しを持って保育計画を立てることができる人材を育てていきたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の業務の多い中、余裕を持って行事計画を進めていけて良かった。 ・例年とは違う対応が必要で苦労が多かったと思う。 ・誰が担当になっても対応できるようなマニュアルのブラッシュアップを。
② 保育のあり方 子どもへの対応	B	子ども一人一人のことを、園全体のことで捉えるという認識を全職員に徹底してきたつもりだったが、そのことを理解し対応できる職員と、なかなか実行できない職員との差が出ていたように思う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ベテランと新人が上手にコミュニケーションをとってほしい。 ・子ども一人一人のこ

		様々な視点からの子どもの見方や理解を柔軟に取り入れたことで、子どもの変化や成長を見守ることができたこともあったので、今年度の良かった点は今後も生かしていきたい。		とを園全体のこととして捉えようとする姿勢が良い。 ・全職員が子ども一人一人のことを園全体のこととして捉えることを実行できると良い。
③ 教師としての資質能力、適正など	C	報告・連絡・相談の徹底が、十分ではないと感じることが多かった。 今後、職員一人一人が、様々なことを自分のこととして考えながら協力し合えるよう、更にコミュニケーションを深め助け合っていきたい。また、危険予知や危機管理に対する意識をきちんと持つと共に、提出物の遅れ、社会人としてのマナー、一般常識等、見直さなければいけない点があることは事実であると感じる。	B	・社会人としての基礎ですので、一人一人がよく考えて行動してほしい。 ・社会人としての意識の欠如があるのだとすれば、早急な改善が必要かと思う。 ・職員同士のコミュニケーションを深めようとする姿勢に期待する。 ・報・連・相は、大事なこと。何でも言い合えるような職場作りを。
④ 保護者への対応	A	今年度も、保護者の皆さまのご理解とご協力をいただきありがたかった。 時にご意見をいただくこともあったが、繰り返すことのないよう、職員に周知するようにした。今後も園の方針は守りつつ、保護者からのご意見を参考にさせていただきながら、保育を進めていきたい。また、気軽に声をかけてくださる保護者も多いが、遠慮されている方もいらっしゃることを忘れずに気を配っていきたい。	A	・大事なお子様をお預かりしている中で、保護者とのコミュニケーションは重要だと思う。 ・顔見知りの保護者とはよく話をしているようだが、他の方への挨拶が少ないように感じる。誰にでも挨拶ができる教師となってほしい。 ・様々な保護者の声を聞き、保護者の立場

				<p>に立った対応を。</p> <ul style="list-style-type: none"> • これからも「親の思い」を汲んで対応してほしい。
⑤ 地域の自然や地域との関わり	B	<p>今年度も新型コロナウイルスの影響で、田植えや稲刈りでの他園との交流、中学生の職場体験の受け入れが中止となった。また、聴覚特別支援学校幼稚部との交流保育は回数が減り、地域の方々との交流を持つことができず残念な一年だった。幼児組は昨年行った相棒活動（散歩）に出掛ける機会を失ってしまい残念だった。乳児組は散歩に出掛ける機会が多くあった。今後も大切にしていきたい。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> • コロナが落ち着き、共存する形となり、少しずつ前のようになると良いですね。 • 様々な対応が必要だと思うが子ども達に色々なことを経験させてほしい。 • コロナ禍で色々工夫してくれたと思う。子ども達の安全を第一に考えた取組は評価できる。
⑥ 研修と研究	B	<p>今年度もリモートでの研修が多く、昨年度よりはスムーズに対応できたように思う。研修には、できる限り参加させていただき、各々学ぶことはできたが、職員への共有が徹底できなかった。忙しい毎日の中で、教材研究がおろそかになってしまうことがあった。職員で協力しながら進められるようにしたい。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> • 慣れないリモート研修で大変だと思うが、皆で協力し合って進めてほしい。 • 研修したことを共有し生かせるようがんばってほしい。
⑦ 外部アンケート	B	<p>昨年同様、運動会や発表会、ゆめのひろば（劇あそび）等では、様々な制限がある中での開催となり、職員は心苦しさを抱くこともあったが、保護者の皆さまからは、職員を労わる言葉や励ましをたくさんいただいた。これからも、子ども達にとって何が大切かを第一に、保護者と園とが協力していきたい。</p> <p>未就園児対象の催し物は、例年通りの内容ではなく園庭開放を行うようにした。毎回、数組の親子が遊びに来てくれた。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍での行事は、何ができるかを考えながらで、大変だと思うが、保護者と協力して頑張してほしい。

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

各学年とも重点課題はほぼ達成できたように思う。季節の事象や園内の豊富な自然に興味関心を持ち遊びに取り入れる姿も見受けられたが、特に幼児は自主的に遊ぶことができる時間がまだまだ少ないように感じる。音楽発表会や劇遊びでは、表現する楽しさを感じ、観ることを楽しむことができる子が増えたように思う。今後も、自分の思いや考えを自分の言葉で表現することや、生活や遊びの中で考えて試してみることを大事にしていきたい。ここ数年課題と感じている、歩くことに慣れていない子が多いということに関しては、今後も課題意識を持って取り組んでいきたいと考える。季節を問わず、感染症対策を行っているが、気を抜くことなく、そしてやり過ぎてしまうことのないよう、細心の注意を払うようにしたい。積極的に挨拶をする子が、まだまだ少ないので、職員が明るく元気に声をだしていくようにしたい。

課題	具体的な取り組み方法
指導計画の編成	今の子ども達にとって大切なことは何か、必要なことは何かを考え、全職員の教育・保育観、保育に対する姿勢、行事に対する具体的なイメージの統一が望まれる。
自然環境・自然体験の整備	園バスだけでなく、徒歩での園外保育も積極的に取り入れていきたいと思いつつも、ほぼ実施することができなかった。園バスで出掛ける園外保育も、教育課程を考えるうえで大切なことだと感じるが、遠くに出掛けるだけでなく、園の近くで散歩を楽しむことも、考えていきたいと思う。
挨拶をしよう	登園時に、元気に挨拶をする園児が少ない。職員から声はかけているが、その声に応えるという姿が少ないように思う。日頃から、単語のやりとりだけで『会話』にならないことも多いと感じるので、子ども達との『会話』『対話』を意識して行っていきたい。
満3歳児保育の充実	3歳児1号認定児（幼稚園）数が、減っている。他園の様子を聞くと、満3歳児（3歳の誕生日を迎えた翌日から入園できる）が多数在籍しているケースが多い。保育室や保育教諭確保の問題はあるが、満3歳児を積極的に受け入れ、充実させていく必要があると考える。
評価委員からのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で日々大変な毎日をまわしていただき、大変ありがたい。 ・コロナ禍で、園の様子を見に行く機会がない中での評価は非常に難しい。 ・先生方も忙しく大変な時代ではあるが、子ども達が安心・安全な園生活を送れるよう、今後も尽力してほしい。 ・これからも、子どもたちのため、努力してほしい。 ・コロナ禍の中、その対応に追われながらの園の運営には、大変な苦労があったと思う。様々な工夫をし、子ども達の立場に立った対応をしたことと思う。引き続き、様々な制約の中での活動になると思うが、安心・安全な教育・保育を期待する。